

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 愛和会 ハナレイ倶楽部
（ユニット名）	グループホーム A
所在地 （県・市町村名）	佐世保市城山町3番21号
記入者名 （管理者）	堀尾 節子
記入日	平成 19 年 9 月 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	☐ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	独自の理念を作り、入居者1人1人に人生の尊敬の気持ちを持ってその人らしく楽しい生活が送れる様支援しているが、地域に密着を目指す理念を作っていきたい
2	☐ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	☐ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	開設時の説明会やホームページなどで日頃の暮らしぶりを知らせたり、行事等を行っている。今後もっと地域に対しアピールできるようにしたい
2. 地域との支えあい			
4	☐ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	☐ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室を3回行い地域からの参加もあった。10月にも予定している。又職員も研修・講習に参加したり、月一回の勉強会も行っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で理解し取り組んでいる。評価に対しても全員に報告・改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではグループホームの状況やサービスの報告と、参加者からは質問等を受けた。今後のサービスに活かしたい。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護教室の開催や市主催の介護専門員の会合等に出席し、佐世保市長寿社会課などと連携を密にとるように努力している		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○	当ユニットではまだ必要な方がいなかったが、今後はいつでも対応できる様に学ぶ機会をもちたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	話し合いや勉強会に参加し、年長者としての尊敬の気持ちで毎日接している	○	高齢者虐待防止関連法は勉強会で学ぶ機会を作りたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書・重要事項説明書に明示し十分に説明して、疑問点を聞いて理解・納得して頂いている。又医療連携体制の改訂時も同意書と説明で同意を得た		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・苦情を気軽に言ってもらえる様働きかけ、すばやく対応できる様にしている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態・近況報告を面会時に説明している。遠方の家族にはその都度面会時と電話で報告を行っている。又ホームページでも紹介している。金銭管理では同意書・預かり書があり、面会時金銭簿の確認と領収書を渡している		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に受付窓口を文書に明示し、エレベーター横に意見箱を設置している。又家族会でも意見交換を行っている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ハナレイ倶楽部全体と、当フロアーの月一回のカンファレンスと申し送りでその都度の話し合いで改善を行っている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者のスケジュールや曜日によって対応できる様柔軟に勤務調整を行っている。管理者は通常はシフトにほとんど入れてない為状況の変化に対応できる様にしている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後2回の勤務異動を行った。離職者は少ない。基本的には各ユニットの職員は固定している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人・中堅・管理者の段階に応じた研修会の参加や、施設内外の講習会にもそれぞれ参加し発表の場を設けている。運営者も理解を得ている。又ミーティングでは状態変化などの対応もその都度行っている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会や他の研修会参加・運営推進会議でのお互いの出席などで交流を持っている。夏祭りの見学や、開設前は他施設へ実習に行っている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上ではできるだけ職員の意見を聞き、いつも気兼ねなく話し合いを行っている。施設全体では、ボーリング大会・納涼会などの年間行事と各フロアでの食事会もある。休憩時間も過ごしやすい環境を作っている		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	公休の他年休も利用できている。年二回の健康診断も実施している。運営者は現場に来て入居者と過ごした、管理者から情報・相談を受けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申込時より施設見学を行ってもらい、本人・家族との話し合いや状況・背景の確認を行っている。入所決定時は自宅訪問を行いできるだけ希望に沿うように努めている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人はもちろん家族の希望を聞き、本人にとって入所生活に不安を取り除いてもらうようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	真剣に受け止め、その方にとって一番適切な支援ができる様、スタッフ間・家族と話し合い対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前の見学や本人・家族の希望と、職員・入所者の紹介を行ったり、入所間もない方の状況に応じご家族の協力を得る時もある。又身体的・精神的状況に応じられる様、家族・職員間で話し合い、なじめるようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日のレクリエーションを一緒に行い、声かけやスキンシップで言葉や表情を出してもらえる様心がけている。できる事は手伝ってもらい感謝・ねぎらいの言葉を忘れずにしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活状況や異変の報告・情報を共有し理解し合えるよう、コミュニケーションを図り本人を支えていく関係を築いている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時の外出や過ごしやすい雰囲気を作ったり、又1人1人の家族関係を把握して、よい関係を築いてもらっている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望時の電話使用や外泊・外出と、自由な面会をして頂いている。数人は昔から行かれている理美容店を利用されている。又在宅生活時の担当ヘルパーさんが定期的に訪問されている方もいる		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでは職員が中に入ったりして孤立しない様配慮したり、入居者の急な立ち上がりや出かけようとする時は声掛け合う様子等、スムーズな人間関係に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時は、面会や家族へ連絡を取り合っている。隣接の病院へ入院された時は利用者と一緒に毎日面会を心がけている。	○	自宅復帰された方には、季節の挨拶や行事の案内などを実地していきたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	体調や希望等本人に合わせた過ごし方に配慮する様努めている。困難時は職員・家族との情報交換を行っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活環境や生活歴の確認と、入所時のフェイスシート作成で把握し、必要時は担当ケアマネジャーとも連絡を取っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝のバイタル測定と表情・会話などの観察と過ごし方をカルテ記入し把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を反映し、主治医との話し合いやスタッフ間でもケアが正しいか確認して作成している。家族・スタッフ間も必要な話し合いに努めている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員が計画のチェックを実地し、体調や生活状況の変化時はその都度見直し、変化がない時でも3ヶ月毎の見直しを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を毎日個別に記録し、申し送りやカンファレンスと家族との報告で共有しながら、介護計画の見直しに努めている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時の同行と、受診後は報告を必ず行い、気分転換・体力維持の為に散歩や外泊・外出等状況に応じた支援を行っている		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練の実地や研修会の参加と、毎朝の屋外清掃を行っているが、これからは他の機関との関わりに努めたい	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、他のケアマネジャーや他事業所との話し合いを行ったり、訪問理美容サービスの利用を使ってもらう等の支援をしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や認定調査時に協働しているが、統合的・長期的にはできていない	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の希望でかかりつけ医を選択して頂き、予約・受診の同行を行っている。又医療連携体制も整っている。緊急時も含め24時間の協力体制ができている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期受診での状態報告や相談を密に行い、必要時は専門病院受診を行っている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に健康管理や状態変化に応じた支援を行える様にしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は家族や医師・看護師へ状態を聞いたり、家族の希望も聞いている。隣接の病院入院時は、病室へ職員が顔をだしたり、グループホームに来てもらったり退院後に備えている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階で医師の意見を聞き、家族に相談・意向・希望を尋ね、対応を職員全員で話し合っている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入所時に、本人・家族の意向を確認している。重度化を想定した対応や、家族の協力、医師・看護師との連絡をその都度とりながら準備を行っている。又終末期に関する指針・同意書がある		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や他施設へは、サマリーの提供や生活状況の注意点や情報交換を行っている。本人・家族に不安を与えない様努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	安心できる優しい言葉かけに配慮し、意味不明の言語が聞かれた時も拒否しないで傾聴し対応している。又入室時も声かけやノックで入室している。個人情報の取り扱いにも注意している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	希望を表せる様な雰囲気・言葉かけや無理強いしないように働きかけている。外出先や献立を聞いたり、できるだけ入所者で物事を考え判断してもらえる様に努めている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	動作時や会話・介護時は見守りをして無理強いしないで、本人の意見・ペースを尊重していくよう努めている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人行きつけの理美容院や月一回の訪問ビューティヘルパーの利用をされている。起床時はブラシをかけたり、洋服は自分で選んでもらい、選べない方は一緒に選んだりしている。時々マニキュアや化粧品も楽しませている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に応じ、献立も季節や昔懐かしい食べ物・好みなど工夫している。簡単な準備や後かたづけは協力を得ている。職員も同じテーブルで食事をして、食べこぼしのある方は傍で見守りサポートしている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつは手作りや数種類の中から選んでもらったり、季節のもの等変化をもたせている。飲み物もいつでも自由に飲める様に目の届く所に準備している。お酒は行事時に用意し楽しみにして頂いている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表の利用などで各入所者のパターンを把握し、できるだけトイレで排泄をしてもらう様誘導を行っている。又尿意のない方でも昼は布パンツを使用し、昼間・夜間に応じた工夫も行っている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	湯の温度や時間も本人の希望を聞き、毎日入浴したい方も対応している。拒否される方も時間をずらして声かけを行ったり、シャワー浴・足浴などの工夫を行っている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後や、傾眠時等本人の意思や生活習慣に応じて過ごしていただいている。不眠時は温かい飲み物や、暫く会話等もしている。又夜間不用意な声かけや物音にも注意している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた行事・外出で楽しんでもらったり毎朝の散歩等、その方に応じたお手伝い(花の水やり・掃除・下膳・ゴミ箱折りや洗濯物たたみ等)で個々の力を活かしてもらっている。レクリエーションも同じパターンにならない様工夫したり、入所者の希望を聞いたりしている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は財布を持たれ買い物・支払いをされる。できない方は預かり金銭簿にて管理し、使用時は本人に渡したり、家族に確認してもらい領収書も渡している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋内・外の散歩や希望時は、近くの公園や買い物などに出かけたり、家族の協力も得て支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の行事や花見・食事等、入居者・職員との話合いで年間行事を立てたり、家族の支援で外出の機会を持ったりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は制限なく電話の取り次ぎを行い、ステーション内の電話をを使用してもらっている。相手が出られたら、状況に応じ席をはずしている。携帯電話をもたれている方やホームに手紙が着くようにされている方もいる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された時には、笑顔での挨拶やお茶をだしての接客に努め会話に努めている。気持ちよく過ごしてもらえる様雰囲気作りや環境整備に心がけている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ったりして理解できていると思う。入所者の目の届く所にスタッフが居り、エレベータの前にはセンサーマットを設置し、緊急時の説明と同意は得ている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	再々1人で離所されたり帰宅願望が強い方の為、時間を決めてエレベーターに鍵をかけている。	○	居室には鍵はかけてなく、出入りは自由になっている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入所者が見える所でカルテ記入を行っており、調理も対面式で行っている。入所者には背中を向けない様心がけている。夜間は巡回時間以外も配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方に応じて対応している。薬はカーテンで目隠しし、洗剤類は所定の場所で、入所者の目の届かないように管理している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入所者1人1人の行動を把握している。又事故発生時は、報告書・ヒヤリハットの記入・提出をしてカンファレンス・申し送り時に話し合い事故防止に努めている。その他勉強会や火災訓練など参加して取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	吸引器の使用方法やマニュアル作成・医師・看護師による応急処置の勉強会を行っているが、充分には熟知していない	○	1人1人は対応できる様に定期的に訓練を行って行きたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な火災訓練の実地で全体の動きや避難経路の確認・誘導等できる様備えている。又毎朝の周辺の清掃を行いコミュニケーションが図れる様努めている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態の変化に対するリスクを、入所時はその都度家族に説明して理解を得ている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1人1人の病気の理解やバイタル測定・顔色・表情・体重測定・食事・水分・排泄・入浴時等すべてに注意をして、記録・申し送りを行い異変の発見に努めている。又異状時はその都度主治医へ報告・相談を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人別と疾患別の処方箋管理のファイルを作成し、効能・注意事項を把握できる様にしている。服薬は個人に合わせて対応している。薬の変更時は申し送りで目的や症状を伝えている。拒否時は時間を置いたり職員を替えたりし、服薬も確認している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や水分補給と毎身体操や散歩などで体を動かしてもらっている。水分・食事摂取量と排便確認も毎日行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は、できる方以外はリビングの洗面台で声かけをして行ってもらい、仕上げ磨きや歯間ブラシを使って支援している。義歯の手入れ・管理も確実に言い、歯科受診されている方は、歯科医からの指示を受け実行している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合った食事量やバランスを考え献立を考えている。時間を決めた配茶や、散歩・入浴後と又いつでも飲める様目の届く所に準備している。その方に合ったコップやストローも使用している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前や外出後の手洗いを実行し、時間を決めて窓を開け換気も行っている。肺炎ワクチンは入所者全員とインフルエンザの予防接種は職員も共に受けている。食中毒に関しては市の講習参加と職員全員に通達を行っている。手拭きはペーパータオルを使用している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ふきん・まな板・包丁は使用前熱湯消毒と毎日ハイター消毒を行い、冷蔵庫も担当を決め点検を行っている。食器類は乾燥機を使用している。肉は前日に、魚は当日に配達してもらっている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は奥まっているが、大きなドアでバリアーフリーになっていて草花を植えたり、看板を設置している。裏からも入れる様になっている。又季節に応じてライトアップ等も見て楽しんでもらえる様に工夫している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダには入居者と一緒に育てた草花があり、それをテーブルの上に飾って季節感を出している。又毎日季節に合った飾りを工夫している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで皆さんと過ごしたり、一人になりたい時の椅子もスタッフが目の届く所に置き自由に過ごしてもらっている。又居室で1人で過ごされている方もいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は自宅から使い慣れた物で、写真・衣類等も自由に持ち込まれている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は掃除の時、昼食時と時間を決めたり、シーツ交換時や必要に応じ換気を行っている。エアコンは集中管理で調節して、外気温差を5℃以内としている。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭を防いでいる		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく、余計な物を置かずにフローア・トイレ・浴室には手すりをつけている。台所でも車椅子での炊事ができる様になっている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	毎朝掃除を行い建物自体が新しく、退去時は補修を行い混乱・失敗を防いでいる。又夜間はトイレに迷わない様、入居者に合わせて足元・洗面台・トイレ等に灯りをつけている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダでは季節の花を植え、朝・夕の水やりや、朝の屋外清掃を行っている。又周辺を毎朝散歩をしている。屋上では物干し場や休憩場所がありお茶の時間を過ごしたりしている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・毎日の生活の中で、食事は季節感を考え、レクリエーションは担当者が毎日楽しめるような内容と、行事では外出先は皆さんが行きたい所を聞いたりし、職員と一緒に楽しく過ごしていただいています。又認知症がそれぞれ違うが年長者としての尊敬の念を持って接しています。